いん石の話

プラネタリウムの話題

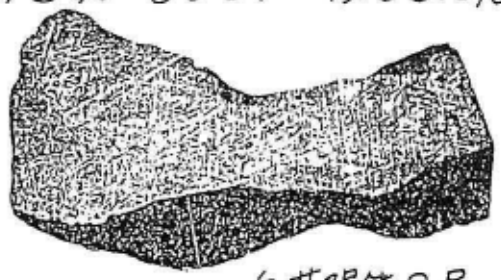
昨年の7月29日の夕方、四国は香川県の国分寺町に、最大10kgの物を含めた、たくさんの「いん石」が落下しました。

富山県でも、明治23年に上市川の上流で、二つの大きないん石が発見されました。一つはローマ字のUの字に似た形をしているもので、東京の国立科学博物館にあり、もう一つは科学文化センターにあります。

いん石は、火星と木星の軌道の間にある小惑星帯からきたのではないかと考えられています。そこには小惑星と呼ばれる無数の小さな天体があります。

いん石は大きく分けて、おもに石でできたもの、おもに石と鉄でできたもの、おもに鉄でできたものになりますが、これらは一つの惑星の一部にあたるという考え方があります。

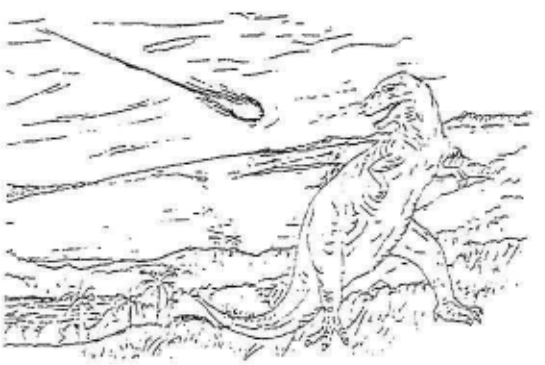
地球の場合でいえば、鉄でできたいん石が核に、鉄と石でできたいん石は核とマントルの境目あたりに、石でできたいん石はマントルあるいは地殻にあたるというわけです。そして、一度できた惑星がなんらかの力を受けて壊されバラバラになり、小さな天体となってたくさんあるところが小惑星帯だというわけです。



白萩隕鉄2号

月を望遠鏡で見るとたくさんのクレーターがあることがわかります。これらの多くは、地球や月が生まれた頃（40数億年前）にいん石が落ちてできたものです。月に近い地球にも当然たくさんのクレーターができたはずですが、その後の火山活動や水や空気による浸食などによって表面が変化したため、生まれた頃のクレーターは見あたりません。それでもいん石は時々落ちてくるため世界中には疑わしいのも含めて100個以上のクレーターが確認されています。

よく知られているアメリカのアリゾナにあるクレーターは直径が1,300メートル、深さ180メートルもある大きなものです。



いん石は最近、恐竜の絶滅に関連して注目を集めています。

中生代に栄えた恐竜が今から約6,500万年前に絶滅してしまいましたが、これが巨大ないん石の衝突によるものだという考えがあるからです。それによると、激しいスピードでやってくるいん石の衝突による直接的な被害の他に、衝突の後巻き上げられた物質によっても影響を受けました。これらの物質は地球をおおい、地上へ注ぐ光は弱まり、まず光合成のできなくなった植物が枯れ、それをエサにしていた草食恐竜が、そしてそれをエサにしていた肉食恐竜が滅びたというシナリオです。（吉村）

富山市科学文化センター
富山市西中野町1丁目8番31号（〒939）
電話 富山（0764）91－2123（代表）

昭和62年12月1日 発行